

標準仕様とクラウドを活用した 校務の改善

令和5年（2023年）12月19日（火）

公開学習会「標準仕様とクラウドを活用した校務の改善の取組」（実践報告）

リーディングDXスクール事業イベント事務局

参加申し込み：個人1252 団体517

認定NPO法人ほっかいどう学推進フォーラム 理事長
（一社）北海道開発技術センター（dec） 地域政策研究所 参事
文部科学省学校DX戦略アドバイザー
新保元康

学習会のゴールと進行予定

1) 何を学ぶか

- ①標準仕様とクラウドを活用した校務の改善の考え方と具体的なイメージをつかむ
- ②自分の教委・学校での実施につなげる

2) 進行予定

- ①大分県玖珠町教育委員会の取り組み × 深堀
- ②埼玉県久喜市教育委員会の取り組み × 深堀
- ③まとめ

16:30終了予定

今ある環境でできる【実践報告】に学ぼう

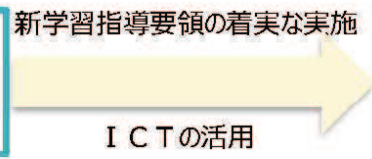
「令和の日本型学校教育」の構築を目指して ～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)【概要】

令和3年1月26日
中央教育審議会

第I部 総論

1. 急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力

- 社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」の到来
- 新型コロナウイルスの感染拡大など先行さ不透明な「予測困難な時代」



一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要

2. 日本型学校教育の成り立ちと成果、直面する課題と新たな動きについて

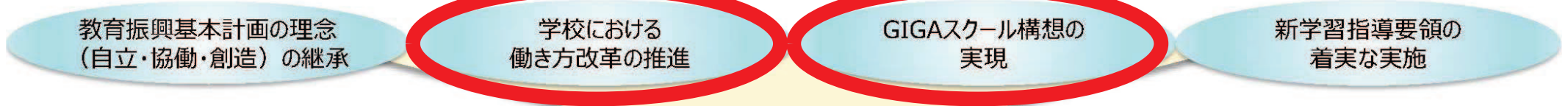
成果

- 学校が学習指導のみならず、生徒指導の面でも主要な役割を担い、児童生徒の状況を総合的に把握して教師が指導を行うことで、子どもたちの知・徳・体を一体で育む「日本型学校教育」は、諸外国から高い評価
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、全国的に学校の臨時休業措置が取られたことにより再認識された学校の役割
①学習機会と学力の保障 ②全人的な発達・成長の保障 ③身体的、精神的な健康の保障（安全・安心につながる可以保证の居場所・セーフティネット）

課題

子どもたちの意欲・関心・学習習慣等や、高い意欲や能力をもった教師やそれを支える職員の力により成果を挙げる一方、変化する社会の中で以下の課題に直面

- 本来であれば家庭や地域でなすべきことまでが学校に委ねられることになり、結果として学校及び教師が担うべき業務の範囲が拡大され、その負担が増大
- 子どもたちの多様化（特別支援教育を受ける児童生徒や外国人児童生徒等の増加、貧困、いじめの重大事態や不登校児童生徒数の増加等）
- 生徒の学習意欲の低下
- 教師の長時間勤務による疲弊や教員採用倍率の低下、教師不足の深刻化
- 学習場面におけるデジタルデバイスの使用が低調であるなど、加速度的に進展する情報化への対応の遅れ
- 少子高齢化、人口減少による学校教育の維持とその質の保証に向けた取組の必要性
- 新型コロナウイルス感染症の感染防止策と学校教育活動の両立、今後起こり得る新たな感染症への備えとしての教室環境や指導体制等の整備



必要な改革を躊躇なく進めることで、従来の日本型学校教育を発展させ、「令和の日本型学校教育」を実現

最終ゴール＝令和の日本型学校教育

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して
～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)【概要】

令和3年1月26日中教審答申

2020年代の日本の教育 「令和の日本型学校教育」

1月26日
審議会

認識すると
し、多様な
え、豊かな
ることができる

第I部

1. 急激に

- 社会の在
- 新型コロナ

2. 日本型

成果

- 学校が学習指導のみならず、生徒指導の面でも主要な役割を担い、把握して教師が指導を行うことで、子どもたちの知・徳・体を一体で育む「日本型学校教育」は、諸外国から高い評価
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、全国的に認識された学校の役割
①学習機会と学力の保障 ②全人的な発達・成長の保障 (つながることができる居場所・セーフティネット)

課題

- 子どもの意欲・関心
- 本来であれば家庭
- 子どもの多様性
- 生徒の学習意欲
- 教師の長時間勤務
- 学習場面における
- 少子高齢化、人口減少による
- 新型コロナウイルス感染症の

学校における
働き方改革

GIGAスクール構想の
実現

教育振興基本計画の理念
(自立・協働・創造)の継承

新学習指導要領の
着実な実施

ここに「標準仕様×クラウドでの校務改善」が効く

まとめ

1) 「GIGA標準仕様×クラウド」で校務改善がさらに前進！

- ①情報共有の質が格段に向上
会議は少なく、コミュニケーションは多く
いつでもどこでも！
- ②各種の手続きが簡便化
- ③Win-Winの課題解決
一般教職員・管理職・保護者＝みんな便利

2) クラウドに慣れる！＝授業改善の近道

- ①共同編集体験＝授業でも使ってみたい！
- ②Chat体験＝個別最適で協働的な学びに活用したい！
＜校務でのクラウド≡授業でのクラウド＞

3) 成功のポイント

- ①追加アプリは不要（今あるものでできる）
- ②既存校務支援システムとの役割分担
- ③管理職のリーダーシップ（学校経営そのもの）
- ④教委と学校に満ち溢れる「やってみなはれ！」精神

働き方改革が進み、教育の質が向上！！